# STABRO 負荷計算 令和 6 年版

利用開始方法と変更・追加点

2025年6月

株式会社イズミコンサルティング

# 目次

はじめに - STABRO 負荷計算 令和 3 年版をご利用中のお客様へ	3
ご利用開始方法	3
インストール	3
STABRO 負荷計算 令和 3 年版で作成されたデータの再利用	3
令和3年版データを令和6年版で開く手順	4
参考:ソフトバージョンと拡張子	5
令和3年版から令和6年版にデータを引き継ぐ場合	5
インポートにより引き継ぐデータ	5
建物構造	6
参照組合せ地区	8
「建築設備設計基準 令和6年版」掲載のガラス種類	9
省エネ基準(H28)ガラス番号、建具名	9
壁タイプIの廃止	10
ユーザーデータの移行方法	11
設計条件/地区データ	11
窓ガラス・構造体	14
令和6年版での変更点	15
令和6年版にて追加されるデータ	15
令和6年版にて更新されるデータ	16
設計条件:人員の小数点以下丸めオプションの廃止	16
地区データ:設計用屋外条件(各時刻)に冬期夜間温度の追加	17
外部遮へい(ルーバー(縦))の追加	19
室登録:加湿量の計算	21
m、m (平米)、m (立米)の各単位における小数点以下有効桁数の変更	22
有効桁数の変更に伴う注意点とお願い	22
印刷機能の廃止	24
新メニューご紹介	25
おわりに	26



-

#### はじめに - STABRO 負荷計算 令和 3 年版をご利用中のお客様へ -

STABRO 負荷計算 令和6年版は、2024年8月 発行の『建築設備設計基準 令和6年版』改正に対応いたしました。

STABRO 負荷計算 令和 3 年版をご契約中のお客様は、STABRO 負荷計算 令和 6 年版ソフト を無償でご利用いただけます。

本ドキュメントでは、STABRO 負荷計算 令和6年版の利用開始方法と、ソフトの変更・追加点をご紹介いたします。

ご利用開始方法

インストール

「STABRO 負荷計算 令和 3 年版」と「STABRO 負荷計算 令和 6 年版」は、1 つの端末に同時にインストールしていただくことが可能です。同時に起動できる台数はご契約いただいているライセンス分となりますのでご留意ください。

プロダクトキーは、STABRO 負荷計算 令和 3 年版 と同じものがご利用いただけます。STABRO 負荷 計算 令和 3 年版 をアンインストールする前に、ヘルプーバージョン情報にてご確認いただくか、納品時 の同梱書類または弊社からのメール等でご確認ください。

STABRO 負荷計算 令和3年版で作成されたデータの再利用

令和 3 年版のファイルを令和 6 年版で利用するには、[インポート]機能を使用します。手順は次ページの通りです。



# ▲ 令和3年版のデータをインポートする際の注意事項

- ・ 令和6年版のインポート機能で指定できるのは令和3年版のデータのみです。それよりも 前のバージョンで作成したデータは事前に令和3年版データとして保存しておいてください。
- ・ 令和3年版で作成したユーザーデータは、インポート機能を使用しても引き継がれません。 お手数ですが、「ユーザーデータの移行方法」の手順をご確認のうえ、別途引き継いでください。
- ・ 令和3年版のデータをインポートすると、データの更新に伴い計算結果も変わることがあります。
   必ずご確認のうえご利用ください。
- ・ 令和 6 年版で保存した物件ファイル(\*.issal7)は、旧バージョンでは開けません。
- ・ 変換前の令和 3 年版ファイル(\*.issal6)はそのまま残るためバックアップは不要ですが、 変換後の令和 6 年版での変更内容は反映されないためご留意ください。

令和3年版データを令和6年版で開く手順

- 1. 「STABRO 負荷計算 令和6年版」を起動
- 2. [ファイル]-[物件データのインポート...]を選択
- 3. [インポート元のデータ種類]から、[旧バージョン(令和 3 年版 Ver6.0)のプログラムで作成したデ ータ]を選択
- 4. [参照...]ボタンよりファイルを選択
- 5. [インポート]ボタンをクリック

ファイル	ホーム サポート		
_		物件データのインボート	×
Г	新規作成	インボート元のデータ種類: ○ 入力分担したデータ ●: 旧バージョン(令和3年版 Ver.6.0)のプログラムで作成したデータ	
<b>2</b>	開<	旧バージョン(令和3年版 Ver.6.0)のプログラムで作成したデータファイル:	
•	上書き保存	※令和3年版(Ver.6.0)より前のパージョンで作成したデータはサポートしておりません。	参照
ļ.	名前を付けて保存		
∍	帳票出力		
1	CSVファイル出力		
$\mathbf{T}$	物件データのインポート		
Ø	オプション		$\sim$
w.1.0	バージョン情報	インボート	キャンセル

※上記手順でインポートしたファイルを保存すると、STABRO 負荷計算 令和6年版の拡張子 (\*.issal7)で別名保存されます。(STABRO 負荷計算 令和3年版のデータは上書きされず、そ のまま残ります。)



# 参考:ソフトバージョンと拡張子

ソフト名	バージョン	拡張子	令和6年版へのインポート
STABRO 負荷計算 令和 6 年版	7.0.XX	.issal7	_
STABRO 負荷計算 令和 3 年版	6.0.XX	.issal6	可
STABRO 負荷計算 平成 30 年版	5.0.XX	.issal	不可

# 令和3年版から令和6年版にデータを引き継ぐ場合

物件ファイルの使用は、「令和3年版データを令和6年版で開く手順」のインポート操作により可能ですが、引継ぎの際にいくつか注意点があるため以下に説明します。

# インポートにより引き継ぐデータ

以下の各項目は、旧バージョン(令和3年版 Ver6.0)のプログラムで作成したデータをインポートすること により引き継がれますが、一部内容が書き換わるため必ずご一読の上ご利用ください。



#### 建物構造

令和6年版では、チェックボックスによる選択となりました。

令和3年版にて入力した建物構造は、令和6年版では「その他」にチェックかつ元の入力内容がテキストボックスに表示されます。(建物構造のチェックボックスと同じ名称が令和3年版で入力されている場合であっても、「その他」欄に表示されます。)

本項目は「建物方位・太陽位置図」の帳票に出力されますが、上記いずれの入力でも出力内容は変わりません。

#### 《画面》

令和3年版	-建物概要 ——	
	件名:	ABC事務所(デモデータ)
	建物名称:	A B C 事務所
	所在地:	東京都
	建物用途:	事務所
	建物構造:	鉄筋コンクリート造
	延床面積	2,000 m <sup>2</sup> 階数: 地上: 10 地下: 1
	帳票作成 :	株式会社イズミコンサルティング
	備考:	2025年6月、第1回目の提出用
令和6年版	建物概要	
	件名:	A B C 事務所(デモデータ)
	建物名称	A B C事務所
	所在地:	東京都
	建物用途.	事務所
	建物構造:	□ 鉄筋コンクリート造 □ 鉄骨鉄筋コンクリート造 □ 鉄骨造 □ 木造
		✔ その他 鉄筋コンクリート造
	延床面積:	2,000.00 m <sup>2</sup> 階数: 地上: 10 地下: 1
	帳票作成者:	株式会社イズミコンサルティング
	備考:	2025年6月、第1回目の提出用
L		



#### 《帳票》

建物名称	ABC事務	所				所在地	東	京都				
用途	事務所				階数		地	地上10階 地下1階				
構造	鉄筋コン	フリート造				延床面積	2.0	00.00	m²			
				3津	物古位• 大限の		1-1					
				74		- 61 63						
南面の法線と	南とのなす角	ŧα[゜]:	-3.5									
		N			太陽高度hお	と75太陽方・	位A					
					地区:東7	7.007.007 7.						
		U.			時刻	00±	1084	1.10	± 1/	<b>**</b>		
		1			高度·方位	90 <del>4)</del>	120+	140	4 10	19 <del>1]</del>		
		-	-		— 高度h[]	49.4	72.5	56.	0 3	2.1		
						-76.1	10.2	68.	3 9	0.5		
w		-	-	E								
					窓面の法線と	南のなす角	α					
		_			窓面	北面	東面	南	節 西	面 —		
		11			α[°]	176.5	-93.5	-3.	5 8	6.5		
		c										
		2										
ガラス面標準	日射熱取得	$I_{C}$			夏期の見掛け	の太陽高度の	D正接(ta	nø汲び	壁面に対	する太陽方	う位角の正接(も	anγ)
地区:東河	<b>京</b>				地区:東河	5						
方位	004	時	約	1.00-5	方位	角度		004	時	》] 1 ///主	1004	
다왕	90 <del>4]</del> 10	12P <del>-1</del> 51	140 <del>4)</del> 50	1064		tand		204	1204	1404	77 92	
水平	40 604	793	666	378	N	tan 2					-124 17	
N	48	51	50	44		$tan \phi$		7.78				
NNE	65	51	50	43	NNE	tan 2		6.60			1	
NE	222	51	50	43		tan Ø		2.25				
ENE	383	51	50	43	NE	tanγ		1.66		•	·	
Е	466	51	50	43		$tan\phi$		1.45				
ESE	474	59	50	43	ENE	tanγ		0.74		•	·	
	410	106	50	43	-	$tan\phi$		1.20				
SE					17	1						

※注意※

本項目での選択内容は、計算方法等には影響を与えません。

本プログラムで非対応の「木造」についてもチェックボックスが用意されておりますが、弊社空調・換気機器 選定プログラム SeACD、設備 BIM クラウドサービス B-LOOP との整合性を保つうえでの仕様です。 建築設備設計基準における<u>木造建築物の計算方法を適用するものではない</u>こと、あらかじめご了承くだ さい。



参照組合せ地区

参照組合せ地区とは、設計用屋外条件から暖房設計用地中温度までの各地区データを一括で選択 するために、弊社が独自に設けている項目です。

『建築設備設計基準 令和 6 年版』にて新規追加された地区データがあることから、令和 6 年版ソフト では改めて同項目の組合せを見直しました(追加データについては「令和 6 年版での変更点」参照)。 組合せの基準は、設計用屋外条件の 80 地区をベースに、気象庁 HP に掲載の緯度<sup>※</sup>で最も近いもの としています。

\*参考 URL: https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/amedas/ame\_master.pdf

令和3年版で作成したデータをインポートした際、<u>令和6年版で組合せが変わっている場合、参照組</u> 合せ地区が空欄に、組合せ地区が編集状態になります。(参照組合せ地区を選択後、手動で地区デ ータを変更した場合と同様)



これについて、

- A) 令和3年版の組合せのまま令和6年版データを保存する場合は、そのまま保存してください
   ※ 同じ設定を別物件でも使用する場合は「ユーザーデータの移行方法」参照
- B) 令和6年版の組合せに変更する場合は、参照組合せ地区を選択し直してください

《組合せが変わる地区の例(金沢)》

A) <u>令和3年版の組合せのまま使用する場合は編集状態</u>

<ul> <li>組合せ地区: 金沢(石川県)</li> <li>ユーザーデーク登録</li> <li>地区デークの地名または地区</li> <li>設計用屋外条件: 金沢</li> <li>ガラス面標準日射熱取得IG: 仙台</li> <li>太陽高度、太陽方位: 仙台</li> <li>国利いたす程序直体をため合・ 仙台</li> </ul>	設計地区 参照組合せ地区: v	削除
地区データの地名または地区 設計用屋外条件: 金沢 ガラス面標準日時熱取得IG: 仙台 太陽高度、太陽方位: 仙台 目刊小の大陽高度、大阪高大位: 山台	組合せ地区: 金沢 (石川県)	ユーザーデータ登録
美财温度差ETD: 仙台 暖房設計用地中温度: 金沢	地区データの地名または地区 設計用屋外条件: 金沢 ガラス面標準日射熱取得IG:仙台 太陽高度、太陽方位:仙台 見掛けの太陽高度と方位角:仙台 実効温度差ETD:仙台 暖房設計用地中温度:金沢	

B) リストから再選択すると令和 6 年版の組合せに更新

- 設計地区	
参照組合せ地区: 金沢 (石川)	具)
組合せ地区: 血区データの地名 軽井沢(長野)	
設計用屋外条件: ガラス面標準日射熱取得IG: 太陽高度、太陽方位: 見掛けの太陽高度と方位角: 実効温度差ETD: 暖房設計用地中温度:	金沢       東京       東京       東京       金沢
※組合せ地区は参考値です。必	



### 「建築設備設計基準 令和6年版」掲載のガラス種類

『建築設備設計基準 令和6年版』では、ガラス種類が大幅に変更されました。

令和3年版で建築設備設計基準のガラスを使用していた場合、令和6年版でも同じ名称の「ガラス 種類」として掲載がある2種類のガラスのみ、ガラス番号および各数値が令和6年版データに置き換わり ます。その他設備設計基準のガラスは直接入力扱いで令和3年版のデータが引き継がれますので、必 要に応じて令和6年版データを選択し直してください。

		▼ガラス番号	遮へい係数 SC			熱通過率 K		
ガラス種類	Ver	ブラインド▶	なし	明色	中間	なし	あり	
透明ガラス 3mm	R3	1	1.00	0.54	0.66	6.5	5.1	
	R6	16	1.00	0.50	0.58	6.0	4.2	
透明ガラス 8mm+	R3	19	0.79	0.50	0.57	3.4	2.9	
透明ガラス 8mm	R6	1	0.79	0.50	0.55	3.2	2.6	
その他設備設計基準の	R3	1,19以外			(省略)			
ガラス	R6	0(直接入力)	令	和3年版	の値をその	のまま引き	継ぐ	

変更内容の詳細は、次の表のとおりです。

省エネ基準(H28)ガラス番号、建具名

建具の名称を最新化するため、省エネ基準(H28)タブに搭載の建具名称を見直しました。 令和 3 年版で省エネ基準(H28)の窓ガラスを使用していた場合、令和 6 年版にインポートした際に以 下のガラス番号(末尾)および建具に変換されます。

令和3年版	令和6年版
PL:樹脂	_WP:木製·樹脂製
_AP:アルミ樹脂複合	_MP:金属木複合製·金属樹脂複合製
_AL : アルミ	_ME:金属製



『建築設備設計基準 令和6年版』では、壁タイプIが廃止されました。

ソフト上では、壁タイプの選択は必須のため、令和3年版で外壁、屋根、ピロティ床の ETD 壁タイプに 「タイプⅠ」が選択されていた場合、令和6年版では「タイプⅡ」に変換されます。

.....

※ 物件データのインポート画面にて、注意点として記載しています。

物件データのインポート	×
インポート元のデータ種類: 〇 入力分担したデータ  ④ 旧バージョン(令和3年版 Ver.6.0)のプログラムで作成したデータ	
旧バージョン(令和3年版 Ver.6.0)のプログラムで作成したデータファイル:	
C:¥ ;¥サンプルデータ(1).issal6	参照
※令和3年版(Ver.6.0)より前のパージョンで作成したデータはサポートしておりません。	
以下は令和6年のデータに更新されます。 設計用屋外条件 ガラス面標準日射熱取得IG 太陽高度、太陽方位 見掛けの太陽高度と方位角 実効温度差ETD 暖房設計用地中温度 窓ガラス・構造体 外壁、屋根、ピロティ床に壁タイプIを使用している場合 →壁タイプIIに変更	
インポート	キャンセル



# ユーザーデータの移行方法

令和 3 年版で使用していたユーザーデータを令和6年版でも使用する場合、手動で再度登録していた だく必要があります。登録可能なユーザーデータと移行の手順は次のとおりです。

設計条件/地区データ

令和 3 年版で登録済みの組合せ地区ユーザーデータ・地区ユーザーデータを令和 6 年版で使用するに

- は、以下手順での再登録が必要です。
- ※ 参照組合せ地区および地区データは物件データにつき1つしか設定できません。移行するユーザーデ ータが複数ある場合は、1~6の手順を移行するデータ分繰り返し実行してください。

#### 令和3年版での作業

1. [設計条件]-「参照組合せ地区]で移行するユーザーデータを選択

<b>A</b>	∼達物概要
 設計条件	件名: ユーザーデータ移行用
×	建物名称:
	所在地:
地区データ	建物用途:
Ê	建物構造:
屋内データ	延床面積: 1,000 m <sup>2</sup> 階数: 地上: 1 地下:
~	帳票作成者:
	備考: 地区データは搭載地区を使用
窓ガラス・構造体	
m.t.	参照組合せ地区: ユーザーデータサンプル1 > 削除 南面の法線と南 とのけえ色 (0):
	組合せ地区: 高松(香川県) ^ ユーザーデーケ登録
全世録	1000 (2000) (2000) (2000) (2000) (2000) (2000) (2000) (2000) (2000) (2000) (2000) (2000)
₽₫	設計用屋外条件 室戸岬 (高知県) ※範囲:-45.0~45.0
	カンス回復準ロ制度が、た時(高知県) 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
MOID <u>ER 34</u> 8	見掛けの太陽高大分(大分県)
₽.	実効温度差ETD 筋原 (長崎県) 「「「「「「「「「「」」」」
<u> </u>	· ··································
負荷確認	在賀 (佐賀県)
	人員の小数点以7 呂崎県) 捨五入 唐印色(唐印色目)
	設計外気量丸め: 名瀬(鹿児島県) 100 ※必要外気量から設計外気量への切り上げ値
	那爾(沖縄県)
	- 5 7 7527102 V



- 個別の地区データのみユーザーデータを使用している場合、
   [地区データ]-[対象のタブ]の参照地区で移行するユーザーデータを選択
  - ※ 移行するユーザーデータを含むすべてのタブで本操作を実行します。



3. 物件データを保存

#### 令和6年版での作業

- 4. 「令和3年版データを令和6年版で開く手順」で3のデータをインポート
- 5. 設計条件で[ユーザーデータ登録...]をクリック

L L L L L L L L L L L L L L L L L L L	_ 建物概要
 設計条件	件名: ユーザーデータ修行用
×	建物名称:
10日	所在地:
×	建物用途:
	建物構造: □ 鉄筋コンクリート造 □ 鉄骨鉄筋コンクリート造 □ 鉄骨造 □ 木造
屋内データ	□ その他
ц.	延床面積: 1,000.00 m <sup>2</sup> 階数: 地上: 1 地下:
窓ガラス・構造体	帳票作成者:
<b>*</b>	備考: 地区データは搭載地区を使用
室登録	参照組合せ地区: ✓ 削除 市面の法線と南
만 <b>さ</b>	200%9月0[1]: N 組合せ地区: ユーザーデータサンプル1 ユーザーデータ登録
系統登録	- 地区データの地名または地区 0.0
~	設計用屋外条件: 東京 ※範囲:-45.0~45.0
b	ガラス面標準日射熱取得IG: 仙台 W
負荷確認	凡物でも25、人物ク1位・ 人物X     見掛けの太陽高度と方位角: 福岡     日本     日本
*	実効温度差ETD: 那覇
->	暖房設計用地中温度: 名古屋 S
▲	※組合せ地区は参考値です。必要に応じて地区データの地名または地区を変更してください。

⇒ 設計条件の参照組合せのユーザーデータが、令和6年版のユーザーデータとして登録されました。
 令和3年版の組合せを令和6年版で使用する場合も、この方法で登録することができます。



6. 地区データにもユーザーデータを含む場合、

[地区データ]-[各タブ]で[ユーザーデータ登録...]をクリック

※ 移行するユーザーデータを含むすべてのタブで本操作を実行します。

直	設計用屋外条件	ガラス面標準日	日射熱取得IG	太陽高度、太陽	ら位 見掛け	の太陽高度と方位角	実効温度差ET	D暖房設計用地中温度
設計条件 ≫	参照地名:		▼ 削除					
	地名: 東京	京 (UD)	編集	ユーザーデータ	登録			
地区データ	- 設計用屋外温/			PA				
Ď	受期: 受期4// 冬期(9時): 冬 冬期(夜間温度	が月における各時: 冬期4か月における そ):冬期4か月に	刻のTAC温度() 59時のTAC温度( おける24時間を追	<sub>5映半2.5%)</sub> (危険率2.5%) 動してのTAC温度	(危険率2.5%	))		
屋内データ ≫	設計用屋外条件	ŧ:						
E a a a a a a a a a a a a a a a a a a a	夏	期	8	期				
 窓ガラス・構造体 ジ	乾球温度[℃] 日最高	最多風向	乾球温度[℃]	最多風向				
<b>•</b>	34.8	S Ŧ	1.7	NW -				
	設計用屋外条件	‡(各時刻):						
至登録	15			夏期			冬期	
p.₫	坦	Ħ	9時	12時	14時	16時 9	時 夜間温	夏
-0	乾球温	度[℃]	32.0	34.3	34.8	33.7	1.7	
系統登録	絶対湿度[k	g/kg(DA)]	0.0203	0.0204	0.0206	0.0200	0.0018	
m.	相対湿	度[%]	67.1	59.2	58.0	60.1	41.7	
ĒQ	比エンタルピー	[k]/kg(DA)]	84.2	86.8	87.8	85.2	6.2	
負荷確認	湿球温	度[℃]	26.8	27.4	27.7	27.1	-1.8	
	備考:							
<u> </u>								

⇒ 地区データの各タブのユーザーデータが、令和6年版のユーザーデータとして登録されました。



-

令和3年版で登録済みの窓ガラス・構造体ユーザーデータを令和6年版で使用するには、以下手順での の再登録が必要です。

.....

#### 令和3年版での作業

- 1. 令和3年版で物件データを新規作成します。
- 2. 「窓ガラス・構造体」作業ページにて、外壁から土間床まで、令和6年版に移行する構造体をすべて



3. 2で作成した物件ファイルを保存して閉じます。

#### 令和6年版での作業

- 4. 「STABRO 負荷計算 R6」を起動します。
- 5. [ファイル]-[物件データのインポート...]より3で保存した令和3年版データをインポートします。
  ※ 操作方法は p.4 をご覧ください
- 6. 「窓ガラス・構造体」の作業ページを表示し、ユーザーデータを移行する構造体を それぞれすべて[ユーザーデータ登録...]ボタンをクリックして登録します。



6 で登録した構造体のユーザーデータが、ほかの物件ファイルでも使えるようになります。
 [ユーザーデータ読み込み...]から呼び出して使用してください。



## 令和6年版での変更点

STABRO 負荷計算 令和 6 年版では、以下に記載する項目を追加、更新しました。

# 令和6年版にて追加されるデータ

▶ 地区データ:設計用屋外条件の冬期夜間温度

	設計用屋外領	それ ガラス面標準月	日射熱取得IG	太陽高度、太陽	易方位 見掛(	けの太陽高度と方位的	月 実効温	度差ETD	暖房設計用地中温度	
設計条件 ※	参照地名:	金沢	♥ 削除	]						
	地名:	金沢	編集	ユーザーデー	-9登録					
地区データ	- 設計用屋外	温度								
	夏期:夏期	月4か月における各時	刻のTAC温度(f	<b></b> ] 6険率2.5%)						
<b>B</b>	冬期(9時) 冬期(夜間)	: 冬期4か月における 温度): 冬期4か月に	59時のTAC温度 おける24時間を							
屋内データ										
*	設計用屋外	条件:								
<b>P</b>		夏期	4	≤期						
窓ガラス・構造体 ≫	乾球温度[9 日最高	C] 最多風向	乾球温度[℃]	最多風向						
mt.	34	4.3 WSW -	-0.	1 SW	~					
安容線	設計用屋外	条件(各時刻):								
× ×		TEP		夏	期		冬	朝		
p.≵		視口	9時	12時	14時	16時	9時	夜間温度		
40	乾珠	[℃]	32.9	34.3	34.0	33.5	-0.1	-0	.9	
系統登録	絶対湿度	[[kg/kg(DA)]	0.0179	0.0183	0.0187	0.0185	0.0029	0.002	16	
r.	相刘	才湿度[%]	56.5	53.4	55.2	56.4	76.7	45.	.6	
ĒQ	比エンタル	²-[k]/kg(DA)]	79.0	81.5	82.0	81.2	7.1	5.	.8	
負荷確認	湿珠	[℃]	25.7	26.3	26.4	26.2	-1.4	-4	.0	
*	備考:								-	
→										
▲ 「 「 「 「 」 」										

- ▶ 地区データ:地区の追加(新潟、名古屋、広島、高松)
  - ◇ ガラス面標準日射熱取得 IG

  - ◆ 見掛けの太陽高度と方位角
  - ◆ 実行温度差 ETD
- ▶ 地区データ: 地名の追加(23 地名 ⇒ 80 地名)
  - ◆ 暖房設計用地中温度



令和6年版にて更新されるデータ

- 地区データ:設計用屋外条件
- ▶ 地区データ: ガラス面標準日射熱取得 IG
- ▶ 地区データ:太陽高度、太陽方位
- ▶ 地区データ:見掛けの太陽高度と方位角
- ▶ 地区データ:実行温度差 ETD
- ▶ 窓ガラス・構造体:ガラス種類、ガラスの遮へい係数 SC、熱通過率 K

設計条件:人員の小数点以下丸めオプションの廃止

令和 3 年版では切り上げ、四捨五入の選択が可能でしたが、弊社空調・換気機器選定プログラム SeACD、設備 BIM クラウドサービス B-LOOP との整合性を保つために当項目を廃止しました。人員を 求める際の小数点以下は、一律切り上げ処理となりますのでご留意ください。



地区データ:設計用屋外条件(各時刻)に冬期夜間温度の追加

冬期に夜間温度が追加されました。

夜間温度とは冬期4か月(12~3月)における24時間を通じての温度です。

### 令和 3 年版

設計用屋外条件	ガラス面標準E	日射熱取得IG	太陽高度、太	陽方位 見掛	けの太陽高度とフ	方位角	実効温								
参照地名: 東京	Ę	▼ 削除													
地名: 東京	Į	編集	ユーザーデ	- 夕登録											
<ul> <li>設計用屋外温度</li> <li>夏期:夏期4か</li> <li>冬期・冬期4か</li> </ul>	そ 月における各時! 月における各時!	刻のTAC温度()	危険率2.5%) ≩∞2.5%)												
設計用屋外条件	<ul> <li></li></ul>														
夏與	阴	4	冬期												
乾球温度[℃] 日最高	最多風向	乾球温度[℃]	] 最多風向												
34.8	S -	1.	7 NW	•											
設計用屋外条件	(各時刻):														
TEC	-		夏	期		~	Ha								
項日	3	9時	12時	14時	16時	~	积日								
乾球温月	寛[℃]	32.0	34.3	34.8	33.7		1.7								
絶対湿度[kg	/kg(DA)]	0.0203	0.0204	0.0206	0.0200	0	.0018								
相対湿度	度[%]	67.1	59.2	58.0	60.1		41.7								
比エンタルピー[	kJ/kg(DA)]	84.2	86.8	87.8	85.2		6.2								
湿球温度	度[℃]	26.8	27.4	27.7	27.1		-1.8								

#### 令和6年版

2計用屋外条	件 ガラス面標準度	日射熱取得IG	太陽高度、太阳	易方位 見掛け	けの太陽高度と方	う (位角) 実効温	腹差ETD							
参照地名: 9	諒	♥ 削除												
地名: 東	諒	編集	ユーザーデ・	-夕登録										
設計用屋外沿	副度													
夏期:夏期·	4か月における各時	刻のTAC温度(危	6険率2.5%)											
冬期(9時):	冬期4か月における	59時のTAC温度	(危険率2.5%	)										
冬期(夜間温度): 冬期4か月における24時間を通じてのTAC温度(危険率2.5%)														
☆オカ(IXIBUMUS)・☆オカイカイカイトロンドロンドロン(UII/AC/multic(UII/R年2,370)) 23年1日月日の11日日の11日の11日の11日の11日の11日の11日の11日の11														
ļ	夏期	\$	期											
乾球温度[℃ 日最高	] 最多風向	乾球温度[℃]	最多風向											
24														
54.	8 S -	2.2	2 NW	•										
34. 設計用屋外条	8 S - ·	2.2	2 NW	•										
34. 設計用屋外条	8 S	2.2	? NW 夏	▼ 		8	期							
34. 设計用屋外条 ]	8 S	2.2 	2 NW 夏 12時	<b>期</b> 14時	16時	冬 9時_	期							
34. 設計用屋外条 ] 乾球	8 S ▼ 〔件(各時刻): 〕 頁目 	2.2 9時 32.1	2 NW 夏 12時 34.5	朝 14時 34.8	16時 33.7	冬 9時 2.2	期 夜間温度 -(							
34. 設計用屋外条 ] 乾球 絶対湿度[	8 S ▼ 4件(各時刻): 項目 温度[℃] kg/kg(DA)]	2.2 9時 32.1 0.0206	P. NW 夏 12時 34.5 0.0207	期 14時 34.8 0.0211	16時 33.7 0.0205	冬 9時 2.2 0.0020	期 夜間温度 -C 0.00							
34. 設計用屋外条 ] 乾球; 絶対湿度[ 相対;	8 S	2.2 9時 32.1 0.0206 67.4	NW 更 12時 34.5 0.0207 59.3	· 明 14時 34.8 0.0211 59.4	16時 33.7 0.0205 61.6	冬 9時 2.2 0.0020 44.8	期 夜間温度 - C 0.00							
34. 設計用屋外条 ] 乾球: 絶対温度[ 相対: 比エンタルビ	8 S ▼ 年(名時刻): 項目 温度[℃] 法g/kg(DA)] 显度[%] -[kJ/kg(DA)]	2.2 9時 32.1 0.0206 67.4 84.9	NW 更 12時 34.5 0.0207 59.3 87.7	期 14時 34.8 0.0211 59.4 89.0	16時 33.7 0.0205 61.6 86.5	冬 9時 2.2 0.0020 44.8 7.2	期 夜間温度 ( 0.00 35 4							



-

これに関連して、室登録の計算条件に「24時間空調」の計算項目を追加しました。 24時間空調を行う室の場合、計算「する」を選択してください。 24時間空調の詳細な説明は[サポート]メニュー[操作マニュアル]からご確認ください。 また、計算条件の項目を計算条件(全般)タブ、計算条件(冬期)タブに分けました。

# 令和3年版

空調負荷区分		王詞貝( 2.7**																		
	冷暖房賃	〔何		Ŧ																
天井高 暖房設計用		補正	条件		補止( Ko	系数 2														
屋内温度補正	補正しな	:U1		Ŧ																
			冷房	負荷				暖房賃	負荷											
顕熱負荷 補正係数	余裕例	緻	間欠〕	重転 数	送風機	負荷数	余裕(	縣数	間欠〕	運転 数										
11222 01001		1.10		1.10		1.05		1.10		1.10										
	日影	水平	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNV	V N	W	NNW	
方位條叙	1.20	1.20	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.05	1.05	1.00	1.05	1.05	1.10	1.10	1.1	0 1.	10	1.10	
		9時	Ø		12	時、14時	、16時(	D	開い	いている上	限量									
ブラインド条件		閒閉	条件			開閉到	€件		(W)	/m²] (	<del>7</del> 里 注)	※IG力	116	以下は	開く、					
	日射熱明	図得量に	より開閉	-	日射熱	取得量に	より開閉	-			116		117	以上は	閉じる					
(汪)「建築設備調	受計計昇着	雪41年552,0	り手引 4	-52,6年前	ないに記事	ten (l	る他でも	明他に	設定し( 改動合7	.おりよ9 告 変	か、必要	別にいいして	ご変更の	たさい。						
冬期の内部発熱	計算	Ψ.	照明負 [%	·何率 ]	人体負 [%	何平  ]	機器	30万円3日内 96]	<del>元</del> ボ!貝1 その他	⊎≕ ][%]										
貝何訂昇	しない	Ŧ																		
熱負荷値		冷房	負荷			暖房創	負荷				-									
負数条件	ゼロ(0)に	する		~	ゼロ(0)(	こする		~												
方和 6 年 語本 室内条何	F版 <sup>#</sup> 計算	条件(全	≧般) 書	†算条件	(冬期)	系統・	備考													
	<b>F版</b>	条件(全 空調負	(新区分)	†算条件	(冬期)	系統·	備考					-								
5和6年 建体 室内条件 空調負荷区分		条件(全 空調負 負荷	·般) (荷区分	t算条件 ▼	:(冬期) ]	系統·	備考				_									
5和6年 整体 室内条作 空調負荷区分	<b>F版</b> + 計算: 冷暖房:	条件(全 空調負 負荷	·般) (荷区分 (冷房	†算条件 ▼ 注負荷	:(冬期)	系統・	備考	暖暖	房負荷											
たおります。     日本の目的では、      日本の目的では、     日本の目的では、     日本の目的では、     日本の目的では、     日本の目的では、	F版 # 計算: 冷暖房: 90下係	条件(全 空調員 損数	·般) ·荷区分 格房 個次 保	↓算条件 ● 〕 運数	:(冬期) 送風; (	系統· 機負荷 約	備考 <i>ダウ</i>	暖見	房負荷間	欠運転										
5 和 6 年 建体 室内条件 空調負荷区分 顕熟負荷 補正係数	<b>F版</b>	条件(全 空調員 損失 1.10	(荷区分) (荷区分) (荷区分)	†算条件 ● ● 荷 ③ 運転 数 1.10	:(冬期) 送風; 伯	系統· 機負荷 (数 1.05	備考 ダク イ	暖 月 長 系数 1.1(	素負荷間	欠運転 係数 1.1										
5和64 陸体 室内条件 空調負荷区分 顕熱負荷 荷正係数 ブラインド条件	<b>F版</b> 中 計算: 冷暖房: ダクト: 係	条件(全 空 荷 長 1.10 98 開	() () () () () () () () () () () () () (	†算条件 注負荷 運転 1.10	:(冬期) 送風; (月 1	<ul> <li>系統・</li> <li>機負荷     </li> <li>1.05     </li> <li>2時、14     </li> </ul>	備考 ダク ( 時、16E 除件	暖 勝 振 数 1.10 寺の	房負荷 間 の の	欠運転 1.1 別いてい 日 別(20)	10 10 1(21)									
5 和 6 年 壁体 室内条件 空調員荷区分 顕熱員荷 荷正係数 プラインド条件	<b>F版</b> 牛 計算: 冷暖房: ダクト係 常に閉し	条件 空負 損数 1.10 開閉 湯	<ul> <li>一荷区分</li> <li>冷房</li> <li>一常の</li> <li>小房</li> <li>小房</li></ul>	+算条件 ▼ そ 一 で う 一 で う つ う つ う で う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ つ つ つ う つ う つ つ う つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	(冬期) 送風。 (引 1 常に閉	系統・ 機負荷 終数 1.05 2時、14 関限 UCる	備考 ダク イ 時、16E 勝条件	暖 服 上損失 系数 1.1( すの	房負荷 間 の 「	欠運転 1.1 駅いてい W/m <sup>2</sup>	10 る上限 ](注)									
<ul> <li> <b>お和 6 年</b> <ul> <li>             室内条             </li> <li>             空司員員荷区分             </li> <li>             登]員員荷区分             </li> <li>             夏烈熱員荷             び             </li> <li>             ガラインド条件         </li> </ul> </li> <li>             sha面面面         <ul> <li>             かも自石面         </li> </ul> </li> </ul>	<b>F版</b> 計算: 冷暖房 ダクト 係: 常に閉し	条 空員 損数 1.10 別駅 冷房	一般) 荷区分 冷房欠保 尊の件	+算条件 負荷 運転 1.10	(冬期) 送風 4 1 1 常に閉	<ul> <li>系統・</li> <li>機負荷</li> <li>1.05</li> <li>2時、14</li> <li>間</li> <li>じる</li> <li>暖房</li> </ul>	備考 ダク ( 時、16f 引条件	暖 月 兵 戦 1.1( 寺の	<b>房員荷間</b> 3000 「「	欠運動 (兵数) 1.1 間いていい 別日射熱 W/m <sup>2</sup>	10 3上限電量 ](注)									
<ul> <li> <b>お和 6 年</b></li></ul>	E 版 # 計算 冷暖房 ダクト係 常に閉じ ゼロ(0)	条 空 員 損数 1.10 明 開 同 本 示 る こ する	<ul> <li>一荷</li> <li>一荷</li> <li>一冷房</li> <li>小荷</li> <li>小市</li> <l< th=""><th>+算条件 負荷 運転 数 1.10</th><th><ul> <li>(冬期)</li> <li>送風</li> <li>(そ)</li> <li>(注)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li></ul></th><th><ul> <li>系統・</li> <li>線負荷</li> <li>1.05</li> <li>2時、14</li> <li>開</li> <li>3</li> <li>103</li> <li>103</li> <li>105</li> <li>105</li></ul></th><th>備考 ダク ( 時、166 県条件 ( ) ( )</th><th>暖度 指損失 1.11 1.11 (1.11)</th><th>房負荷 間 の 「 「</th><th>欠運転 係数 1.1 明いていい 日射熱 W/m<sup>2</sup></th><th>10 3上限量 ](注)</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></l<></ul>	+算条件 負荷 運転 数 1.10	<ul> <li>(冬期)</li> <li>送風</li> <li>(そ)</li> <li>(注)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li> <li>(⊥)</li></ul>	<ul> <li>系統・</li> <li>線負荷</li> <li>1.05</li> <li>2時、14</li> <li>開</li> <li>3</li> <li>103</li> <li>103</li> <li>105</li> <li>105</li></ul>	備考 ダク ( 時、166 県条件 ( ) ( )	暖度 指損失 1.11 1.11 (1.11)	房負荷 間 の 「 「	欠運転 係数 1.1 明いていい 日射熱 W/m <sup>2</sup>	10 3上限量 ](注)									
S和6年 室内条4 空調負荷区分 顕熱負荷数 ブラインド条件 熱負荷値 有数条件 読法は、変の年4	F版 本 計算: 「 冷暖房: ダクト: 係: ダクト: 低: 「 (の)」 本 計算: 「 冷暖房: 「 (の)」 本 読います。 「 (の)」 本 計算: 「 (の)」 本 読います。 「 (の)」 本 読います。 「 (の)」 本 読います。 「 (の)」 本 読います。 「 (の)」 本 読います。 「 (の)」 本 読います。 「 (の)」 本 読います。 本 読むます。 本	条 空負 損数 1.10 開 でする を生 (4)	一般) 一部の	+算条件 	<ul> <li>(冬期)</li> <li>送風(4)</li> <li>第に関</li> <li>ゼロ(0</li> <li>(冬期)</li> </ul>	<ul> <li>※続・</li> <li>※続数</li> <li>1.05</li> <li>26時、14</li> <li>開閉</li> <li>10じる</li> <li>10じる</li> <li>10じまする</li> </ul>	備考	暖 損 長 集 3 1.1(1) ( す の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	<b>房負荷</b> 間 つ し 「 「	欠運転 係数 1.1 間いてい W/m <sup>2</sup>	10 る上限量 ](注)									
<ul> <li>法和 6 年</li> <li>室内条件</li> <li>空調負荷区分</li> <li>頭熱負荷</li> <li>頭熱負荷</li> <li>ブラインド条件</li> <li>熱負荷条件</li> <li></li> <li></li></ul>	<b>E 版</b> キ 計算 冷暖房 ダクトド・ 常に閉し ゼロ(0)	条件(全 算荷 員数 1.10 開駅 でする 条件(全	一般) 荷区分 冷房(単) (市) (市) (市) (市) (市) (市) (市) (市) (市) (市	+算条件 負荷 重数 1.100 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(冬期) 送風( (冬期) 1 1 ゼロ(0 ( (冬期)	<ul> <li>系統・</li> <li>機負荷</li> <li>1.05</li> <li>20時、14月</li> <li>11じる</li> <li>11じる</li> <li>11じる</li> <li>11じる</li> <li>11じる</li> <li>11じる</li> <li>11じる</li> </ul>	備考 <i> </i>	暖度大 振失 系数 1.1(1)	房負荷 間 の の 「	欠運転 1.1 別いてい 別 W/m <sup>2</sup>	10 3上限量 ](注)									
	F 抗気 (冷暖房) ダクト(係) 常に閉し ゼロ(0)」	条 空負 損数 1.10 開 でする 条 補正条	<ul> <li>一般)</li> <li>一次</li> <l< td=""><td>+算条件 </td><td>(冬期) 送風 <sup>(</sup></td><td>系統・ 機負荷 1.05 28時、14日 開し 107 50 第5 第5 第5 第5 第5 第5 第5 第5 第5 第5</td><td>備考 ダク (</td><td>暖焼 ド損失 系数 1.1(1 寺の</td><td>房負荷 間. のの 〔</td><td>欠運 変 (振数 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.</td><td>10 る上限量 ](注)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></l<></ul>	+算条件 	(冬期) 送風 <sup>(</sup>	系統・ 機負荷 1.05 28時、14日 開し 107 50 第5 第5 第5 第5 第5 第5 第5 第5 第5 第5	備考 ダク (	暖焼 ド損失 系数 1.1(1 寺の	房負荷 間. のの 〔	欠運 変 (振数 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.	10 る上限量 ](注)									
<ul> <li>法和 6 年</li> <li>空内条</li> <li>空内条</li> <li>空内条</li> <li>空内条</li> <li>空内条</li> <li>頭熱負荷区分</li> <li>頭熱負荷</li> <li>ブラインド条件</li> <li>熱負数条件</li> <li>強体</li> <li>空内条</li> <li>運動算用</li> <li>運動算用</li> </ul>	<b>F 版</b> ** 計算 ** 暖房 ** に閉じ ** に閉じ ** に閉じ ** 計算 補正した	条 空員 員 し り 引 に 1.10 の 分 る 冷 房 の し 、 の の 開 の し 、 の し 、 の の の の の の の の の の の の の の	一般) 「 「 一般) 「 一般) 「 一般) 「 一般) 「 一般) 「 「 一般) 「 「 「 「 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー		(冬期) 送風 作 1 1 ゼロ(0 で(冬期) 補正係 Kc	<ul> <li>系統・</li> <li>総数</li> <li>1.05</li> <li>2時、14</li> <li>開助</li> <li>103</li> <li>運動</li> <li>運動</li> <li>第二</li> <li>第二</li></ul>	備考 <i> </i>	暖気 ド損失 系数 1.11(1) ううの	写負荷 間 の の 「	欠運 (係数 1.1 間いてい W/m <sup>2</sup>	10 3上限 現得量 1(注)									
<ul> <li>法和 6 年</li> <li>室内条</li> <li>空洞負荷区分</li> <li>頭熱負荷区分</li> <li>頭熱負荷数</li> <li>ブラインド条件</li> <li>熱負数条件</li> <li>酸素の条</li> <li>支井高町</li> <li>屋内温度補正</li> <li>24時間空調</li> </ul>	<b>E 版</b> 冷暖房 夕かた 常に閉し ゼロ(の)の 神正した 計算	条 空員 員数 1.10 開 駅 でする 条 件((全 条 補 ル) () ) () () () () () () () () () () ()	<ul> <li>一般)</li> <li>一滴区分</li> <li>冷房の保</li> <li>一條段)</li> <li>一個人の保</li> <li>一個人のの保</li> <li>一個人のののののののののののののののののののののののののののののののののののの</li></ul>		(冬期) 送風( ) (冬期) ( ) (冬期) ( ) (冬期) ( ) (冬期)	<ul> <li>系統・</li> <li>機負荷</li> <li>1.05</li> <li>2時、14月</li> <li>1103</li>     &lt;</ul>	備考 <i>ダウ</i> (	暖 「 損失 系数 1.110 	零負荷 間 の の 「	欠運転 係数 1.1 間いていい W/m <sup>2</sup>	10 る上限量 ] (注)									
<ul> <li>お和 6 年</li> <li>室内条</li> <li>空洞負荷区分</li> <li>頭熱負荷数</li> <li>ブラインド条件</li> <li>熱負数条件</li> <li>酸素の条</li> <li>強体 室内条</li> <li>医房設度計用</li> <li>四凶速度</li> <li>四公前</li> <li>24時間空調</li> </ul>	FLD           冷暖房           夕かた係           夕かた係           少ない           ゼロ(0)           荷正した           満正した	条件(全負 )	全般) 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	+算条件 	(冬期) 送風 作 1 常に関 ゼロ(0 端正係) Kc	<ul> <li>系統・</li> <li>機負荷</li> <li>1.05</li> <li>2時、14日</li> <li>1.05</li>     &lt;</ul>	備考 ダウ イ 1 時、166 月 会 件	暖 ぼ ほ 供 失 系 数 1.110 ( う の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	<b>房負荷</b> 間 の し て	欠運転 係数 1.1 期いてい W/m <sup>2</sup>	10 る上限量 ](注)									
<ul> <li>ネ和 6 年</li> <li>室内条</li> <li>空洞負荷区分</li> <li>頭熱負荷数</li> <li>ブラインド条件</li> <li>熱負数条件</li> <li>酸素体</li> <li>整内条</li> <li>酸素体</li> <li>整内条</li> <li>酸素酸</li> <li>支内湯</li> <li>支内</li> <li>シーク</li> <li>シーク</li></ul>	FLD           冷暖房           夕かた係           夕かた係           夕たこのの           夕たこのの           中           計算           補正した           ごおけ           しない           日影	条 空負 損数 1.10 開荷 失 1.10 開切 冷房 です 条 補い 算 水平	一般) 「 市区分 市区分 市風気 市場条件 会荷 ・ (株) ・ (本) ・ (	+算条件 	(冬期) 送風 作 1 1 常に関 ゼロ(0 (冬期) 満正係 Kc	<ul> <li>系統・</li> <li>系統・</li> <li>1.05</li> <li>2時、14(5)</li> <li>1.05</li> <li>運動</li> <li>第二条統・</li> <li>医数</li> </ul>	備考 ダウ ( 前 見条件 借考 E	暖 度 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	房負荷 間 の ( 「 」	欠運転 1.1 即日射熱 W/m <sup>2</sup>	10 10 10 1(注)	3 SS	W S		SW	w	WNW	/ N	1 WI	
<ul> <li>お和 6 年</li> <li>室内条</li> <li>空別</li> <li>室内条</li> <li>空別</li> <li>(第二)</li> <li>(1)</li> <li>(1)</li></ul>	EL版 第二日の1000000000000000000000000000000000000	条件(全 員 員 数 1.10 9開 間 一 次 る 冷 る 二 (3 ) (3 ) (3 ) (3 ) (3 ) (3 ) (3 ) (3	一般) 「 市区分 市区分 市原気 作 ・ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	+算条件 負荷 運転 1.100 +算条件 +算条件 <b>新行</b> 1.10	(冬期) 送風 (冬期) 常に関 ゼロ(0 (冬期) 補正係 Kc	<ul> <li>系統・</li> <li>系統・</li> <li>1.05</li> <li>2時、14</li> <li>1053</li> <li>運動</li> <li>第</li> <li>第</li> <li>第</li> <li>ENE</li> <li>1.10</li> </ul>	備考	暖焼 ト損失 系数 1.1(1 う う とSE	考負荷 間 の り て て て て て て て て て て の の て て て の の て て の の し て の の し て の の の し の の の し の の の の	欠運転 係数 1.1 即いてい W/m <sup>2</sup> … SS 55 1.0	10 る上限 取得量 ](注)	3 SS 3000 1	W S 05 1	W W .05 1	SW	W 1.10	WNW 1.10	/ N	1 WI	NNW 1.10
<ul> <li>法和 6 年</li> <li>整内条</li> <li>空詞負荷区分</li> <li>顕熱負荷</li> <li>頭熱負荷</li> <li>夏熱負荷</li> <li>夏熱負荷</li> <li>夏熱負荷</li> <li>夏熱負荷</li> <li>夏熱負荷</li> <li>夏熱負荷</li> <li>夏熱負荷</li> <li>夏熱負荷</li> <li>夏熱した</li> <li>夏熱した</li></ul>	FLD           冷暖房           冷暖房           ダクトト           第に閉し           ゼロ(の)           中 計算           補正した           日記           1.20	条件(全) 損数 1.10 9開 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	<ul> <li>一般)</li> <li>一荷区分</li> <li>冷房欠係</li> <li>一時条件</li> <li>(損荷)</li> <li>(損荷)</li> <li>(損荷)</li> <li>(日本)</li>     &lt;</ul>	+算条件 負荷 運転 数 1.10 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(冬期) 送風 令 行 常に関 ゼロ(の (冬期) 補正係 Kc レ レ レ レ レ	<ul> <li>条統・</li> <li>条統・</li> <li>1.05</li> <li>26時、1445</li> <li>1.053</li> <li>1.053</li> <li>1.053</li> <li>1.053</li> <li>1.105</li> <li>1.105</li> <li>1.105</li> <li>1.105</li> </ul>	備考 ダクク 4 勝,166 局条件 備考	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	欠運転 1.1: 1.1: 1.1: 1.1: 1.1: 1.1: 1.1: 1.1	10 る上限 取得量 目 (注)	5 SS 5000 1	W S 05 1	W W .05 1	SW10	W 1.10	WNW 1.10	/ N	1W 1 .10	NNW 1.10
<ul> <li>法和 6 年</li> <li>陸峰 室内条</li> <li>空調員荷区分</li> <li>頭熱員商数</li> <li>項前正係数</li> <li>ブラインド条件</li> <li>熱負数</li> <li>(本) 室内条</li> <li>(基) (本) (本)</li> <li>(基) (本)</li> <li>(基) (本)</li> <li>(基) (本)</li> <li>(本) (本)</li> <li>((+) (+) (+)</li> <li>((+) (+) (+)</li> <li>((+) (+)</li>     &lt;</ul>		条件(全員	<ul> <li>一般)</li> <li>一荷区分</li> <li>冷房</li> <li>「「「「「」」</li> <li>一一、「「」</li> <li>一一、「」</li> <li>一一、</li> <li>一、</li> <li>一、&lt;</li></ul>	+算条件 - - - - - - - - - -	(冬期) 送風 4 1 1 ゼロ(0 (冬期) 浦正係派 Kc V NE 1.10	<ul> <li>              ≰続・ 1.05 26時、144月 105 夏時、144月 夏時、144月 夏時、144月 夏季</li></ul>	備考 ダククイ 時,166 時条件 勝条件 健 (備考 1.11(1) その して して して して して して して して して して	■選手 ド損失 系数 1.1(1) 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	写負荷 間 の 「 「 「 「 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 」 「 」 」 「 」 」 「 」 」 「 」 」 「 」 」 「 」 」 「 」 」 「 」 」 「 」 」 」 」 」 「 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 、 」 二 、 つ 」 、 」 、 こ の 、 こ 、 つ 、 ろ 、 こ 、 つ 、 こ 、 つ 、 こ 、 ろ 、 こ 、 つ 、 こ 、 ろ 、 こ 、 こ 、 つ 、 こ 、 こ 、 つ 、 こ 、 こ 、 こ 、 こ	欠運転 1.1 四町射熱 田射熱 第 55 1.4 9 0 1.6 9 0 1.6 9 0 1.6 9 0 1.6 9 0 1.6 9 0 1.6 9 0 1.6 9 1.8 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 1.6 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 9 1.6 1.6 1.6 9 1.6 9 1.6 1.6 1.6 1.6 9 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6 1.6	10 10 3上限 取得量 1 (注)	5 SS 5000 1	W S 05 1	<u>w</u> w .05 1	SW .10	W 1.10	WNW 1.10	/ N	IW 1	NNW 1.10
<ul> <li>法和 6 年</li> <li>空内条件</li> <li>空調負荷区分</li> <li>頭熱負荷数</li> <li>ブラインド条件</li> <li>熱負数</li> <li>ブラインド条件</li> <li>熱負数</li> <li>ご方インド条件</li> <li>24時間空調</li> <li>方位係数</li> <li>内部光熱</li> </ul>	FL	条件(全 員 有 1.10 開 間 次 冷 家 (全 条 補 正 少 水 平 1.20 厚	<ul> <li>一般)</li> <li>一荷区分</li> <li>冷房(個人)</li> <li>小冷房(俳句)</li> <li>小谷(俳句)</li> <li>小谷(明)</li> <l< td=""><td>+算条件 </td><td>(冬期) 送風 作 行 に 見 で (冬期) 補正係派 Kc NE 1.10 人体 [</td><td><ul> <li>         条統・         第二         第二</li></ul></td><td>備考 ダクク ( 時,166 高条件</td><td>■通知 ド損失 系数 1.1(1) 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「</td><td>写負荷 間 0 0 1 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5</td><td>欠運転 1.1 別いていた 回射射熱 W/m<sup>2</sup> 55 5 1.( 章荷 の 0 (%)</td><td>L0 る上限 取得 目 (注)</td><td>5 SS 5000 1</td><td>W S 05 1</td><td>W W 05 1</td><td>SW 10</td><td>W 1.10</td><td>WNW 1.10</td><td>/ N</td><td>1W 1 10</td><td>NNW 1.10</td></l<></ul>	+算条件 	(冬期) 送風 作 行 に 見 で (冬期) 補正係派 Kc NE 1.10 人体 [	<ul> <li>         条統・         第二         第二</li></ul>	備考 ダクク ( 時,166 高条件	■通知 ド損失 系数 1.1(1) 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	写負荷 間 0 0 1 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	欠運転 1.1 別いていた 回射射熱 W/m <sup>2</sup> 55 5 1.( 章荷 の 0 (%)	L0 る上限 取得 目 (注)	5 SS 5000 1	W S 05 1	W W 05 1	SW 10	W 1.10	WNW 1.10	/ N	1W 1 10	NNW 1.10



[窓ガラス・構造体]-[ひさし]タブの項目内にルーバー(縦)が追加されます。 令和3年版では [▼]ボタンよりひさし寸法図を選択しましたが、令和6年版では「タイプ」項目のプルダ ウンから選択します。

#### 令和 3 年版









ルーバー(縦)の情報は、帳票「ガラス面日射面積率(SG)の算定」出力を行うと、「ガラス面日射面積率 (SG)の算定(ルーバー)」シートに出力されます。

計算方法は[サポート]メニュー[熱負荷計算方法を確認]からご確認ください。



ABC事務所(デモデータ)





#### 室登録:加湿量の計算

全熱交換器を用いる場合の加湿量計算にて、給気の絶対湿度の計算方法が変更されました。 計算方法は[サポート]メニュー[熱負荷計算方法を確認]からご確認ください。

これに伴い、室登録の計算条件(冬期)内に「加湿量計算」と「顕熱交換効率」の計算設定項目を追加しました。

顕熱交換効率は、全熱交換器の計算が「する」の場合に入力可能となります。

なお、令和3年版データをインポートした場合、

・加湿量計算の初期値は「する」となります。

・顕熱交換効率を入力してください。

構造体	室内条件	‡ 計算	条件(全	殿) 言	算条件	(冬期)	系統・	備考											
天	井高 設計用		補正条	件	:	補正係数 Kc	k												
屋内温	温度補正	補正し	ない		-														
241	胆龙铜	計	算	]															
2403	间空洞	しない	$\nabla$	]															
ちが	亡候新	日影	水平	Ν	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW
7,11	11/1/11/11/11	1.20	1.20	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.05	1.05	1.00	1.05	1.05	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10
		=+	笛	照明創	夏荷率	人体負	有率	その	也の内部	発熱負	苘率								
内部	『発熱	ĒI	异	[9	6]	[9	6]	機器	[%]	その他	][%]								
		しない	$\nabla$			_													
加湿	量計算	≣†	算	交練麗 ?]	換効率 6]														
		する	Ŧ		65.0														

※顕熱交換効率は、全熱交換器の計算を行う場合のみ加湿量の計算に使用します。

#### 帳票「熱負荷計算書」にも顕熱交換効率が出力されます。

L										-		/1**-8	HR 000) D0
		合	計[W]					15,519	16,036	16,125	15,830		6,210
気	[m <sup>8</sup> /h]	3	为率 [%]	冬	65.0	100	0.0	2,240	2,440	2,520	2,300	[kg/h] 1.16	2,220
外	設計	<u>م</u>	熱交換	夏	65.0	通過率	(%)	2 240	2 4 4 0	2 5 2 0	2 260	顕熱交換 効率[%] 65.0	2 220
	m <sup>*</sup> 当たりの 室内全熱負荷 [V	/m²]		_				68	70	70	69		21
	室内全熱負 (LH·SH合計)	τ [W]			_			13,279	13,596	13,605	13,470		3,990
計	室内負荷合 (LH·SH別) 補正(	† & [W]						11,689	12,006	12,015	11,880	19	3,971
集	室内負荷合 (LH·SH別) 補正(	† (f [W]	1,590	1,590	1,590	1,5	90	10,077	10,350	10,358	10,241	19	3,282
	数 ダクト損失	係数×	送風機負	(荷(間欠	運転)係	数 /		1.16	1.16	1.16	1.16		1.21
	止 係 夏期:送馬	は機負荷	睛係數、《	冬期:間ク	マ運転係	数 /		1.05	1.05	1.05	1.05		1.10
	補 ダクト損タ	係数					Λ	1.10	1.10	1.10	1.10		1.10



m、m(平米)、m(立米)の各単位における小数点以下有効桁数の変更

<b>展</b> (平	令和 3	年版		令和	6 年版	
─────────────────────────────────────	有効桁数	ß	列	有効桁数		例
m	小数点以下 2 桁	階高	3.50	小数点以下 3 桁	階高	3.50 <mark>0</mark>
		天井高	3.00		天井高	3.00 <mark>0</mark>
㎡(平米)	小数点以下1桁	床面積	48.0	小数点以下 2 桁	床面積	48.0 <mark>0</mark>
㎡(立米)	小数点以下1桁	室容積	144.0	小数点以下 2 桁	室容積	144.0 <mark>0</mark>

m、m (平米)、m (立米)の各単位について、小数点以下有効桁数を変更しました。

## 有効桁数の変更に伴う注意点とお願い

1. 「令和3年版データを令和6年版で開く手順」のインポート操作により、令和3年版データをインポートした際に、室構造体の面積と差し引く窓面積の値が異なる場合があります。

地区データ					構造体	▲ 室内条件	計算条件(全般)	Ē	†算条件(冬期)	系統·備考			
×	1	1	001	1 階事務室									
	2	1	002	会議室(1)		方位	記号		幅	局さ (奥行)	面積	差しらK 窓面積	合計 [m2]
屋内データ	3	1	003	給湯室					fini	[m]	[111-]	[m²]	[111-]
×	4	1	004	管理人室	1	S ,	- OG-02	Ŧ	20.200	2.200	44.44	v	44.44
Life 1	5	1	005	応接室	2	S ,	- 0W-01	Ŧ	20.200	3.000	60.60	44.40 -	16.20
窓ガラス・構造体	6	1	006	更衣室(男)	3	N	OG-01	Ŧ	8.000	1.800	14.40	v	14.40
V	7	1	007	更衣室(女)	4		- 🛄 IW-01	Ŧ	20.200	3.000	60.60	0.00 -	60.60
⊡‡	8	2	008	2 階事務室	5	,	- 🚺 GW-01	Ŧ	20.200	9.600	193.92	0.00 -	193.92
	9	2	009	会議室	6	N	- 🛄 IW-01	Ŧ	8.000	3.000	24.00	14.40 -	9.60
室登録	10	2	010	給温室	7		-						

令和3年版データインポート時に、構造体の面積は幅×高さ(奥行)で再計算しておりますが、差し 引く窓面積は手入力された数値である場合もあるため、再計算しておりません。 令和3年版データをインポート後に差し引く窓面積の見直しを行ってください。

- 例)方位「S」で「OG-02」の窓面積と、構造体「OW-01」の差し引く窓面積を一致させる場合・差し引く窓面積の[▼]を押下することで再計算されます。
- 2. 令和3年版の画面から令和6年版の画面に室構造体の情報をコピー&ペーストすると、コピーしたとおりに表示されない場合があります。



《画面》																		
令和 3	地区データ						構造	体	室内条件	計算	<b>算条件</b>	系統・備	考					
左垢	$\otimes$	1	1	001	1 階事務室													
午放	E C	2	1	002	会議室(1)				方位		15 1	5	幅	局さ (奥行)	面積	差しらく 窓面積	合計	ひさし記
	屋内データ	3	1	003	給湯室								ſIJŢ	[m]	[m=]	[m²]	[m*]	
	× ×	4	1	004	管理人室		1	s		•	OG-0	2 -	20.20	2.20	44.4	v	44.4	河 E-01
		5	1	005	応接室		2	s		-	ow-	)1 -	20.20	3.00	60.6	44.4 -	16.2	
		6	1	006	更衣室(男)		3	N		-	OG-0	1 -	8.	1.80	14.4	Ŧ	14.4	
	窓ガラス・構造体	7	1	007	更衣室(女)		4			-	IW-0	1 -	20.20	3.00				
	×	8	2	008	2 階事務室		5			-	GW-0	)1 -	20.20	9.60	桶	造体を行	3E-	
	<u>u</u>	9	2	009	会議室		6	Ν		-	IW-0	1 -	8.00	3.00	24.0	14.4	9.0	
	室登録	10	2	010	給湯室		7			~		~				Ŧ		
今和6	地区データ					構造	体室	内的	: 計算条	【件(全	般) 計	算条件(冬	[期) 系統	統·備考				
	*	1	1	001	1 階事務室			-										
年版		2	1	002	会議室(1)			方心		記号		「「」	i (E	高さ 回行)	面積	差し引く	合計	ひさし・ル
	屋内データ	3	1	003	給湯室					10 3		[m]	]	m]	[m²]	[m <sup>2</sup> ]	[m²	] 高七 <sup>3</sup>
	×	4	1	004	管理人室	1	s		- 🗌 C	G-02	v				44	.40	- 44.4	10 📝 E-0
		5	1	005	応接室	2	s		- 🖽 C	W-01	Ŧ	20.20	00	3.000	60	.60 44.4	0 - 16.2	20
	窓ガラス・構造体	6	1	006	更衣室(男)	3	_		v		v						Ť	
	×	7	1	007	史衣至(女) 2.账吉欢会	4	_		*		Ŧ				- 時	り付け	r	
	<b>U</b>	8 Q	2	008	2 hr 当 防 全 会 端 宏	5	-		*		*					- 13.7	ř –	
	室登録	10	2	010	公開主	6					- -							

例) 令和3年版の室構造体行をコピーし、令和6年版の室構造体へ貼り付け
 ・構造体「OG-02」の面積にはコピーした値「44.4」が設定されます
 ・構造体「OG-02」の幅、高さ(奥行)が空欄になります
 →幅×高さ(奥行)の計算値「44.44」とコピー&ペーストした面積「44.4」が
 一致しないため、面積が優先され、幅、高さ(奥行)が空欄になります。

小数点以下桁数の変更により、コピーした幅×高さ(奥行)の計算値と

コピーした面積の値が一致しない場合は、上記の例のように幅、高さ(奥行)が空欄となります。

・幅、高さ(奥行)を確実に入力する場合、面積はコピーしないでください。

・室構造体をコピー&ペーストした場合、差し引く窓面積の見直しを行ってください。

《画面》															
令和 3	地区データ					構造	<b></b>	室内条件	+	計算条件	系統·備	考			
年版	₩	1	1	001	1 階事務室								<b>.</b>		
	E I	2	1	002	会議室(1)			方位		記者	3	幅	局さ (奥行)	面積	差しらく 窓面積
	屋内データ	3	1	003	給湯室							[m]	[m]	[m=]	[m²]
	×	4	1	004	管理人室	1	s		Ŧ	0G-0	2 -	20.20	2.20	44.4	Ŧ
		5	1	005	応接室	2	s		Ŧ	🖽 ow-o	)1 -	20.20	3.00	60.6	44.4 -
		6	1	006	更衣室(男)	3	Ν		v	0G-0	1 🔻	8.00			
	窓ガラス・構造体	7	1	007	更衣室(女)	4			Ŧ	🛄 IW-0	1 -	20.20	コピ-	- (面積を	:除く)
	×	8	2	800	2 階事務室	5			Ŧ	[ GW-0	)1 -	20.20	5.00	170.7	
	<u>u</u>	9	2	009	会議室	6	Ν		Ŧ	🛄 IW-0	1 -	8.00	3.00	24.0	14.4 -
	室登録	10	2	010	給湯室	7			Ŧ		Ŧ				Ŧ



令和 6	地区データ					構造体	室内条件	計算条件(全般)	ŧt;	算条件(冬期)	系統·(	備考			
年版		1 2 3	1 1 1	001 002 003	1 <b>階事務室</b> 会議室(1) 給湯室		方位	記号		幅 [m]	高さ (奥行 [m]	)	面積 [m²]	差し 窓面 [m	,引く 釘積 1 <sup>2</sup> ]
		4	1 1	004 005	管理人室 応接室	1	5	• OG-02	* *	20.200 20.200	2	2.200 3.000	44.44 60.60	(	- 0.00 -
	 窓ガラス・構造体 ※	6 7	1 1	006 007	更衣室(男) 更衣室(女)	3			Ŧ			Γ.	キレミノ空西	11	v v
	<b>回</b> 式 <sup>室登録</sup>	8	2	008 009	2 階事務室 会議室	5 6		貼り付け ※面積は自	動	計算され	る	7	を見直す	惧	v v

# 印刷機能の廃止

「印刷プレビュー」、「Excel 出力+印刷」、「印刷」機能を廃止しました。 「Excel 出力」にてファイルを出力後、Excel のメニューより印刷してください。

<ul> <li>帳票出力</li> <li>出力項目 オプション</li> <li>出力項目</li> <li>✓ 表紙</li> <li>✓ 素紙</li> <li>✓ 熱負荷計算書</li> <li>✓ 熱負荷集計</li> </ul>	<ul> <li>✓ 設計条件</li> <li>✓ 違物方位・太陽位置図</li> <li>✓ 違物方位・太陽位置図</li> <li>✓ 満辺度条件・ETD・地中温度</li> <li>✓ ガラス面日射面積率(SG)の算定</li> <li>✓ 構造体負荷 窓ガラス・内壁</li> <li>✓ 構造体負荷 窓ガラス・内壁</li> <li>✓ ガラス面日射負荷</li> <li>✓ 各室設計条件</li> <li>✓ 各室設計条件</li> <li>✓ 各室設計条件</li> <li>✓ 各室設計条件</li> <li>✓ 構造体一覧</li> </ul>	✓ 五豆塗み一覧 寸法・設計用屋内条件         ✓ 室登録一覧 寸法・設計用屋内条件         ✓ 室登録一覧 院明・人体         ✓ 室登録一覧 だの他内部発熱・ すきま風・外気         ✓ 室登録一覧 計算条件         ✓ 室登録一覧 構造体         ✓ 構造体材料一覧	×
すべて選択	すべて解除	✓ 各ページに件名を印刷する	
	負荷	集計表TSV出力 閉じる	3



.

新メニューご紹介

メニューから熱負荷計算方法が確認できるようになりました

[サポート]メニュー[熱負荷計算方法を確認]を選択してください。



メニューからサンプルデータフォルダを開けるようになりました [サポート]メニュー[サンプルデータフォルダを開く]を選択してください。



ナビゲーションバーから帳票出力が行えるようになりました ナビゲーションバーの[帳票出力]を選択してください。

	負荷詳細表: 建物集計【外皮	[+内部+外気負荷]	
Ē			
室登録	負荷項目		~
~		低宗出力	~
면급	室内負荷	出力項目 オプション	
系統登録	単位負荷(室内) [W/m²]		
~	外気負荷	- □ 衣紙 □ #2x1 %H □ #2x1 %H □ #2x1 %H □ #2x5 \%H □ #2x5	
<b>D</b>	負荷合計	<ul> <li>□ 熱負荷集計</li> <li>□ 温湿度条件・ETD・地中温度</li> <li>□ 室登録一覧 照明・人体</li> <li>□ ガラス面日財面積率(SG)の算定</li> <li>□ 室登録一覧 その他内部発熱・</li> </ul>	
自荷確認	単位負荷(合計) [W/m²]		
₩			
<b>→</b>		□ 各室設計条件         □ 構造体材料一覧           □ 各室設計条件 すさま風         □	
		すべて選択 すべて解除 ✓ 各ページに件名を印刷する	
		負荷集計表TSV出力 Excel出力 閉じる	õ



# おわりに

「STABRO 負荷計算 令和 3 年版」から「STABRO 負荷計算 令和 6 年版」にバージョンアップするに あたり、新たに追加される仕様・変更点についてご紹介いたしました。さらに便利にお使いいただけるよう、 より一層品質の向上に努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。



### STABRO 負荷計算 令和6年版

利用開始方法と変更・追加点

2025年6月作成

 制作者 株式会社イズミコンサルティング 〒162-0822
 東京都新宿区下宮比町2-1第一勧銀飯田橋稲垣ビル6階 ホームページ URL https://izmc.co.jp/

> お問い合わせフォーム: https://izmc.co.jp/it/software/ ├ [操作サポート・不具合] 027-384-2356

└ [ご契約・購入] 03-3868-3126

© Izumi Consulting Inc. All Rights Reserved.

- (1) 本書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
- (2) このソフトウェアの仕様は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 製品の内容については万全を期していますが、ご不審な点や誤り、マニュアルの記載もれなどお気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。

STABRO は、(株)イズミコンサルティングの登録商標です。 Microsoft および Windows は、米国 Microsoft 社の登録商標です。 Adobe Reader、Acrobat は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。 その他、会社名、製品名は、一般に各社の登録商標、商標です。

